

ツメタガイ *Glossaulax didyma* (Roding)

(渚錦) 研螺貝



タマガイ科 大型、貝殻は円形に近く饅頭型。蓋は角質で薄褐色。臍滑層が大きなものをハヤシツメタと区分することもある。分布は北海道南部以南。

大きさ事例：平均殻径 48.0mm 平均殻高 41.4mm、平均体重 33g (N=11 2006 年 9 月測定 羽田空港浅場)

ブルドーザーのように砂を押し分けて動き、アサリ等を捕食する。食害されたアサリの殻頂付近にはすり鉢状の穴があいている。

産卵は自分で分泌した粘液で砂を固めその中に卵を産む。この卵塊は茶碗を伏せたような形をしているので、「砂茶碗」と言う。

アサリの害敵ツメタガイ

ツメタガイは 1 日に 2 個体のアサリを食べる。「砂茶碗」一つに 3~5 万の卵が入っているので、これらが、全て生育すると約 12kg のアサリが食害される。

＊全国豊かな海づくり推進協会(2006 年) 豊かな海 No.9

「1 個のツメタガイを取除けば、10kg のアサリが食害を免れる」との試算もある。

＊三重県(2010 年) 三重県アサリ資源管理マニュアル

浜名湖漁協の「砂茶碗」駆除事例：平成 16 年には役員が半日で 150kg (約 12,000 個)、平成 17 年も同様に 500kg(約 40,000 個)。さらに漁業者 400 名が参加し、約 2 時間で 1,500kg (約 120,000 個) を除去した。＊浜名湖のアサリ資源回復の挑戦 (2006 年 6 月号 漁村)

ツメタガイを食べる

普通に煮ると硬いので、酢を数滴たらしただけで煮た後、自然に圧力が抜けるまで放置すると、サザエを軟らかくしたような味わいとなる(日本経済新聞夕刊 2004 年 2 月 3 日)。



黒く見えるのが砂茶碗（三枚州 貝桁漁獲物 2011 年）



写真左：砂茶碗とツメタガイ

写真右：砂茶碗作成中のツメタガイ（羽田空港浅場 2011 年）



食害されたアサリ（殻頂付近の穴）

トゲアメフラシ *Bursatella leachii leachii* Blainville フレリトゲアメフラシ

アメフラシ 別名フレリトゲアメフラシ 体長 10cm。外套膜は棘でおおわれる。黄褐色の地に青色の斑紋が美しい。